

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102048		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム言の葉の家 (1号館)		
所在地	浜松市東区貴平町571-1		
自己評価作成日	令和1年8月13日	評価結果市町村受理日	令和元年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277102048-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277102048-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの南側に小さな畑があります。そこに季節の野菜や花を植え、入居様が毎日その成長を楽しむことができます。収穫のときには全員で参加します。平屋の建物であるためユニット間の行き来が活発で気の合った入居者様同士交流する機会も多く見られます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5年以内2名、5年以上10名(内10年以上5名)と長年勤務する人たちが構成されたチームのため「その人が地域の中で自分らしく生きていけるように」との理念は、自身も地域で暮らす職員には当たり前のこととなり、敢えて「理念云々」と言わないものの散歩や菜園での野菜づくりにも力を入れ、自然な流れで理念が推進されている事業所です。常にはイベントや時節行事、外出企画の大きなものはありませんが、「買い物好き」「お菓子が好き」という利用者が多く、毎年福祉体験に訪れる中学生にも「飲んでもらいたい」として、次回の体験日には売店をつくって室内お買い物で楽しむこととしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が地域の中で自分らしく生きていけるように私たちは支援していきます、という理念を掲げ共有・実践している。	5年以内2名、5年以上10名(内10年以上5名)と長年勤務する人たちで構成されたチームのため理念は当たり前となり、職員自身も地域で暮らす人が多く居て、敢えて「理念云々」と言わないものの自然な流れで推進されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に参加している。また自治会より敬老会や桜まつり・秋祭りへの誘いがある。	表の通りはトラックや営業車が行き交っていて危険ですが事業所の周囲は田んぼで、散歩の帰りには野菜を沢山もらってくることもある長閑な地域です。中学生の福祉体験も恒例となり、生徒からの手紙もフロアに掲示されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の受け入れを優先している。また中学校の職場体験の受け入れを行い、入居者様が子供たちとの交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。自治会長、民生委員、入居者様の後見人等、多い時には10人程度の参加があり、質問や意見を出し合っている。	「地域の行事情報を～」と募ったところ春の桜まつりと秋のお祭りが上がり、出店のお饅頭を楽しみにおこづかい持参で出かけた日もあり、問いかけに回答してもらったり、時には事業所が出席者の質問に答えてと、意見交換の場として確立しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請時や運営推進会議への参加のお願い、生活保護入居者様の相談や手続きなどで行き来している。	4名の生活保護者のことでは浜松市社会福祉課とも連携を持ち、オムツや更新等もあって区役所の窓口には月2、3回出向いています。また支え合いポイントの登録事業者となり、紙芝居やオカリナ、折り紙のボランティアも積極的に受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会でAA課程を受け、話し合いをし、職員全員でマニュアルを再確認している。 3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会議を行っている。	昨年度の法改正に伴う指針整備及び身体拘束適正化検討委員会の設置があり、昨年度は規定より1回増やして5回の委員会開催が叶っています。また新入社員はパートタイマー職であっても法人が敷いた研修プログラムを受講するよう手配しています。	研修会の記録の一部が本部にあるものもあるため、今後は所内に複写物を残すよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼文に出ている虐待根絶サービス向上委員会からのメッセージに職員全員が目を通している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を3名が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭に加え、文書でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内をお知らせしている。ご家族が来設した際は入居者様の状態を伝えている。	成年後見制度を利用する人は3名いて、内保佐人1名が1ヶ月に数回来所のうえ、運営推進会議や防災訓練に加わってくださいます。面会は多い人でも月に2、3回ですが、請求書を毎月取りに来てもらっており、月1回はフェイスTOフェイスで話し合う機会があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会やカンファレンス等で意見交換をしている。それ以外にも常に話しやすい雰囲気作りを心がけている。	月1回の定例会、ユニット毎のカンファレンスは協議が必要であれば随時おこなわれ、話し合う場があります。ベテランばかりのためか会議をさにおいて現場でオペレーションが変更されていることも間々あり、会議は臨機に対応した際の見直し、修正の場ともなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は出来る限り応えている。パート職員にも交通費や達成手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にA課程・B課程の受講が義務付けられている。 初任者研修の受講を勧めている。 月1回AA課程を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内、アルバイトとして勤務する事があり、その際には他施設の取り組みや良い点など参考にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後1週間から1ヶ月を重点的にご本人、ご家族から聞き取りしている。認知症があり、環境の変化を踏まえた上でご本人の発言・表情・仕草など注意深く観察し、配慮した声かけや対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの困りごとや要望を聞く際、ご本人の生活歴・性格・好みなどの聞き取りをし、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状態やご家族からの要望を聞いた上で個別に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の行う家事で洗濯物たたみなどの軽作業や畑の草取り、農作物の収穫を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に出来る範囲で受診の付き添いをお願いしている。また現在では5名の入居者様がご家族と外出する機会を持っており、その際には施設での様子、外出先での様子を職員、家族間で報告しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から参加しているお茶会に、今も月1回出かけて行く入居者様がいる。親戚や友人・知人など面会者がある時は居室でゆっくりと過ごせるよう配慮し、また来てくれるよう声かけをしている。	面会の制限時間を特に設けず、仕事帰りにも寄ってもらっています。華道を趣味としていた人には正月をはじめハレの日の活け花をお願いしたり、縫い物が得意な人には他の利用者の衣類のほころびを繕ってもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみなど皆で行えるよう配慮している。外気浴では1・2号館共に会話や歌をうたい、交流を持っている。居室で過ごす方には様子を見ながら適宜声かけをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人に関しては、退去後も行ける範囲で新たな行先(病院やグループ内の施設等)へ顔を出している。またご家族から相談があれば、必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン変更時にはご本人・ご家族に聞き取りをしている。聞き取り困難な入居者様には生活の様子を観察やコミュニケーションを図る事で希望や意向を探っている。	事業所で静岡新聞、利用者が中日新聞をとっていますが新聞販売店の厚意で各1部ずつ追加でサービス配達されていて、意向実現には外部の力も得ることができています。活字が好きな人は「何が載っているかな」と覗き込むように読んでいる様子を視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の必要書類と共に生活歴シートなどを個別にサマリーに綴っており、いつでも職員が見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に記す、モニタリングを行う、訪問看護師や主治医の意見を聞くなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報共有するためカンファレンスを行い、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。	2表のサービス内容はシンプルで具体的です。利用者も職員も長く、相互にわかり合えていることが沢山あるものの、利用者本人の減る等変化・変調が日々あるため、ケアサービスにおける職員間の報連相は密に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やADL表、カンファレンスノート等に記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の関係者や市の支えあいポイント事業による演芸ボランティアの受け入れをしている。また定例会などで出たアイデアでお菓子の売店やカラオケ大会を催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年敬老会の誘いがあり、弁当を頂いている。また職員と入居者様の散歩時には地域の方から農作物を頂くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診や必要に応じて整形・眼科・歯科受診への付き添いを行っている。	在宅の頃からのかかりつけ医を家族の受診支援で続ける人が1名、月1回協力医へ職員の介助で通院する人は7名、重度化で通院が難しくなって月2回の訪問診療医に切り替えた人が10名います。どのケースであっても経過記録と診療記録に医療情報を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来ており、その都度相談し、助言を受け必要時受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報用紙を作成し、病院との連絡を密に取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切に方針を決めている。	契約時には心身の状態が変化したら話し合うこととしていて、病院やグループ内の介護老人保健施設に移設とすることが結果として多くあり、看取り実績はほとんどありません。家族が看取りを希望された場合、「医師の協力が得られるか等の条件が整えば可能」としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、周知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・水害の防災訓練を消防署と協力して行っている。	年2回の法定訓練は夜間想定も組み込み、通報・避難誘導・消火といったメニューに取り組んでいます。平屋のため水害想定での避難は、徒歩6、7分の同法人事業所への2階へと向かうこととし、本番さながらの避難訓練もおこなっています。	通報訓練を体験できていない職員も少なくないので、今後は訓練日のシフトへの配慮があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活ができなくなった入居者様を他の入居者様に分からないようサポートし、一人ひとりの人格を尊重する声かけをしている。	下膳のとき「〇〇さん、下げますよ」「いいですか」「ありがとう。ごめんね」と、職員から感謝の言葉が出ています。個室への入退室は本人に確認することとし、申し送りも本人の症状によっては部屋番号でおこなうこともあります。	食事用のエプロンを外すのが最期だったので(本人の拒否があったこともあります)、今後はまずは外してから下膳など他のことに取り掛かると、なお良いと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、自分の希望を言えるような声かけ、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の活動を優先する介護サービスを心掛けている。やりたい事があれば希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回のビューティーヘルパーでの散髪や髭剃り等を行い、常に清潔な身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜を収穫し食べている。また季節を感じられるようおはぎなど作り、入居者様に提供している。	朝・夕と昼、それぞれ2種類の業者を利用して、ほぼ完成した状態で献立が毎日届けられています。固かったり、味が合わないとなれば職員が手を加えていて、そのままでヨシとはしておらず、検査結果は業者に伝え改善につなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や栄養補助食品・飲料など個別に対応、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせ見守り・声かけを行い、必要に応じて介助している。 訪問歯科を1名利用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを知り、時間で誘導している。	「なるべくトイレで」を旨とし、排泄チェック表をつけてリズムを把握のうえ、声掛け誘導を重ねています。以前は牛乳の配達を家族が契約していたこともありましたが、現在は便秘対策は概ね医師の指示による薬となっていて、看護師が浣腸もおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従い、水分補給や服薬による対応をしている。また歩行可能な入居者様にはホール内を歩いてもらったり、車いすの方には立位訓練をしてもらうなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	会議や行事のある日以外は毎日、夏はシャワー浴、冬は湯船につかり、また冬至にはゆずを浮かべ温まってもらっている。	休浴日は日曜日のみとし、他は湯をはっています。利用者本人は週3日を目安として、希望があれば毎日の対応は可能ですが、どちらかという拒否気味の人が増えています。職員の自宅から柚子が届いての変わり湯の日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は自席で自由に過ごしてもらい、体調に応じて居室で休んでもらっている。夜間は安眠できるよう適宜エアコンを使用し、温度調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報に目を通し、症状に変化があれば経過記録に記し、必要に応じて医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作物の収穫や外気浴で気分転換を行ない、また個々にパズルや塗り絵などの趣味活動への誘いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と外出できる方はお願いをし、施設では初詣、花見ドライブ、地域の桜まつりなどへ出かけている。	外気浴や散歩が盛んなことは玄関先に山積み帽子に現れています。初詣と春の花見ドライブは恒例となり、また本年は地域の秋祭りに出かける予定で、他には家族が墓参りや外食に連れだしてくださる人も数名います。	誕生日月の個別外出など、1年に1度は本人の行きたい場所、馴染みの場所との再会が叶うと、なお良いと思います。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっている。必要な物品は施設で買いそろえたり、家人に持参をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話は自由に使えるが、文字を書くことは難しく手紙は困難なため面会時に職員が		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるようホールにその時期の貼り絵を飾っている。 毎日掃除を行ない、入居者様が心地よく過ごせるようにしている。	梁が見える設計で天井が高く、2ユニットが廊下伝いに続いていて、清々としています。「めずらしい花が咲いたから」と鉢植えを自宅から持ち込み、また「娘の結婚式で使ったものだけ」と壁に飾り、「明るく雰囲気になよう」との職員の心意気が伝わる共用空間です。	お客様をお迎えする最初の場面ということもあり、玄関前のミニガーデンの手入れが行き届くことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、テレビ、CD、新聞、パズル、塗り絵等々楽しめるよう用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを配置したり、ご家族の写真や趣味活動でできた塗り絵、折り紙などを飾っている入居者様もいる。	洗面台、カーテン付クローゼット、ベッド、エアコンが予め備わり、テレビをはじめ馴染んだものや自分の時間を過ごすのに必要なものを持ち込んでいます。和服姿の女性や熱帯魚など、好みの写真を切り抜いて壁に張巡らす居室には気持ちの若々しさが満ちていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力や安全に配慮した環境づくりを心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102048		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム言の葉の家(2号館)		
所在地	浜松市東区貴平町571-1		
自己評価作成日	令和1年8月13日	評価結果市町村受理日	令和元年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277102048-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277102048-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの南側に小さな畑があります。そこに季節の野菜や花を植え、入居者が毎日その成長を楽しむことができます。収穫のときには全員で参加します。平屋の建物であるためユニット間の行き来が活発で、気の合った入居者様同士交流する機会も多く見られます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5年以内2名、5年以上10名(内10年以上5名)と長年勤務する人たちが構成されたチームのため「その人が地域の中で自分らしく生きていけるように」との理念は、自身も地域で暮らす職員には当たり前のこととなり、敢えて「理念云々」と言わないものの散歩や菜園での野菜づくりにも力を入れ、自然な流れで理念が推進されている事業所です。常にはイベントや時節行事、外出企画の大きなものはありませんが、「買い物好き」「お菓子が好き」という利用者が多く、毎年福祉体験に訪れる中学生にも「飲んでもらいたい」として、次回の体験日には売店をつくって室内お買い物で楽しむこととしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が地域の中で自分らしく生きていけるように私たちは支援します、という理念を掲げ、共有・実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加している。また自治会より敬老会や桜まつり・秋祭りへの誘いがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の受け入れを優先している。また中学校の職場体験の受け入れを行い、入居者様が子供たちとの交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。自治会長、民生委員、入居者様の後見人等。多い時は10人程度の参加があり、質問や意見を出してくれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請時や運営推進会議への参加のお願い、生活保護の入居者様の相談や手続きなどで行き来している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会でAA課程を受け、話し合いをする。職員全員でマニュアルを再確認している。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼文に出ている虐待根絶サービス向上委員会からのメッセージを職員全員が目を通してしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を3名の方が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭に加え文書でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内をお知らせしている。ご家族が来設した際は入居者様の状態を伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会やカンファレンス等で意見交換をしている。それ以外にも常に話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は出来る限り応えている。 パート職員にも交通費や達成手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にA課程、B課程の受講が義務付けられている。また初任者研修の受講を勧めている。 月1回AA課程を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の施設をアルバイトとして勤務する事があり、その際には他施設の取り組みや良い点などを話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後1週間から1か月を重点的にご本人・ご家族から聞き取りをしている。認知症があり、環境の変化を踏まえた上でご本人の発言・表情・仕草など注意深く観察し、配慮した声かけや対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの困りごとや要望を聞く際、ご本人の生活歴・性格・好みなども聞き取りをし、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状態やご家族からの要望を聞いた上で個別で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の行う家事(洗濯物たたみなどの軽作業)や畑の草取り、農作物の収穫などを一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に出来る範囲で受診の付き添いをお願いしている。また現在では5名の入居者様がご家族と外出する機会を持っており、その際には施設での様子、外出先での様子を職員、家族間で報告しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から参加しているお茶会に、今も月1回出かけて行く入居者様がいる。親戚・友人・知人など面会者がある時は居室でゆっくりと過ごせるよう配慮し、また来てもらえるよう声かけをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみなど皆で行えるよう配慮している。 外気浴では1・2号館共に会話や歌をうたうなどし、交流を持っている。居室で過ごす方には様子を見ながら適宜声かけをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人に関しては退去後も、行ける範囲で新たな行先(病院やグループ内施設等)に様子を見に行っている。またご家族から相談があれば必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン変更時にはご本人・ご家族に聞き取りをしている。聞き取り困難な入居者様には生活の様子の観察やコミュニケーションを図る事で希望や意向を探っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の必要な書類と共に生活歴シートなどの情報を個別のサマリーに綴っており、職員がいつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に記す、モニタリングを行う、訪問看護師や主治医の意見を聞くなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報共有するため随時カンファレンスを行い、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やADL表、カンファレンスノート等に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の関係者や市の支えあいポイント事業による演芸ボランティアの受け入れをしている。また定例会などで出たアイデアでお菓子の売店やカラオケなどの行事を催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年敬老会の誘いがあり、弁当を頂いている。散歩時には地域の方から農作物を頂くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診や必要に応じて整形・眼科・歯科受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来ており、その都度相談し、助言を受け受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報用紙を作成し、病院との連絡を密に取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切に方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、周知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・水害の防災訓練を消防署と協力して行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活ができなくなった入居者様を他の入居者様に分からないようサポートし、一人ひとりの人格を尊重する声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、自分の希望を言い合えるような声かけ、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の活動を優先する介護サービスを心掛けている。やりたいことがあれば希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回のビューティーヘルパーでの散髪や髭剃り等を行い、常に清潔な身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜を収穫し食べている。また季節を感じられる食べ物(おはぎなど)を作って提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や栄養補助食品・飲料など個別に対応、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせ見守り・声かけを行い必要に応じて介助している。 訪問歯科を1名が利用している。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握、時間で誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従い、水分補給や服薬による対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	会議や行事以外は毎日、夏はシャワー浴を、冬は湯船につかり温まってもらうようにしている。冬至にはゆずを浮かべ香りを楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は自席で自由に過ごして頂き、体調に応じて居室で休んで頂いている。夜間は安眠できるよう適宜エアコンで温度調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報に目を通し、症状に変化があれば経過記録へ記し、必要に応じて医師の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作物の収穫や外気浴で気分転換を行ない、また個々にパズルや塗り絵などの趣味活動の声かけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出できる方にはお願いをし、施設では初詣、花見ドライブや地域の桜まつりへ出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっている。必要な物品は施設で買いそろえたり、ご家族にお願いし、持参してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望する方に利用して頂いているが、文字を書くことは難しく、現在は手紙のやり取りをしている方(希望者)はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、ホールにはその時期の貼り絵を飾っている。 毎日の掃除に加え、目に付いた汚れは取り除くなどし、入居者様が心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、テレビ、CD、ゲーム、パズル等を用意し自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを設置したり、ご家族の写真や趣味活動でできた塗り絵、折り紙などを飾ってある入居者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力や安全に配慮した環境作りを心掛けている。		